

# 学校評価シート

実学ひとすじ、好きを未来につなげよう

建学の精神 「実学尊重，創意工夫」

達成度評価 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：方策の見直し

## 1. 学校運営目標

(1) 歴史と伝統の下で培った学校力で、人づくりの明成力を発信

(2) 目と手をかける指導で、社会の要請に応える学校づくり

分掌	具体的目標	年度当初			最終評価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
教務部	(1) 学びの姿勢の確立及び基礎学力の定着と向上	わかる授業の実践と教材研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートでは7割程度が「授業を理解できる」と答えている。</li> <li>修得できない単位もあるが、殆どの生徒が進級・卒業している。</li> <li>平成25年度から進級条件の単位数が増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業ウィークを設定し、教員相互の資質向上を図る。</li> <li>家庭学習が定着できるように科コースに応じた指導を行う。</li> <li>学力不足の生徒に対して、再試・補習など適切な指導が進められているか、こまめに確認する。</li> <li>「わかる授業」の研究を推進するために、研修の機会を周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月に授業参観ウィーク、2学期からは外部講師を招いて研究授業及び講演会を行った。</li> <li>成績会議の結果から面談を実施するなど、学習に対する意識向上に努めた。</li> <li>外部講師による講演会など、できるだけ多くの先生へ参加を呼びかけた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業の日程は、準備も含めて余裕を持った計画を立てたい。</li> <li>家庭学習の定着には、まだ働きかけが足りない。基礎的な力が身につくように反復学習の機会を増やしたい。</li> <li>冬休み指導の重要性を十分理解させて取り組ませる方法を考えたい。</li> <li>出張で研修してきたことは伝達講習会を設けてはどうか。</li> </ul>
	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取り組み	落ち着いた学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して授業に取り組む姿勢が望まれる。</li> <li>教室の美化に工夫を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心穏やかに授業に臨むよう、図書係と共に朝読書を奨励する。</li> <li>ベル開始・終了を声かけ、実践する。</li> <li>教科主任会やコース会を受けて、問題のある生徒には早い時期に面接指導を行う。</li> <li>いつも教室をきれいに整えられるように、保健厚生係と連携しながら、声かけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>徹底できないところも見られる。</li> <li>みんなで取り組んで、生徒たちにも良い効果をもたらした。</li> <li>科コースで学習状況調査をしたり教科担当者と打合せをもったりと工夫がなされた。</li> <li>テスト前だけでなく日頃からきれいに使うように声かけしたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い方向に進んでいるので、図書係と相談して読書を推進していく。</li> <li>次年度も周知徹底を図り、全員でベル開始・終了に努めたい。</li> <li>科コースごとの教科担当者の情報交換会を実施し、情報が共有できるようにしたい。</li> <li>普段の授業を受けるときから、こまめに注意し、意識させる。</li> </ul>
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	心身ともに健康な生徒の育成	規範意識や自己実現を図る力、道德教育の推進が必要である。	集団の一員である意識をつけるために、授業規律TPOを守るように率先して指導する。	授業規律TPOは学びの姿勢を身につけさせるのに重要なポイントで、今後も実践、声かけに努めたい。	A	今後も規範意識を高められるように、粘り強く指導を続ける。
	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進	各教科での授業内容の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に対する意識が希薄な生徒がいる。</li> <li>希望進路を達成するには基礎学力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部、生徒指導部と連携して、外部テスト実施、結果の活用場面を設定する。</li> <li>受験または進学後に通用する学力をつけさせるために、長期休みの講習などを計画、実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路については進路指導部にまかせてしまい、教務との連携はできなかった。</li> <li>進路指導部主体で進学合宿を行ったが、学内での夏季講習なども実施できればと思う。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も第1回成績会議で結果考察をして、その後の指導につなげたい。</li> <li>合宿以降も力をつけられるように、放課後補習を提案したい。</li> </ul>
	(5) 募集定員充足のための学科・コースの工夫改善	業務の点検・実施	教務規定や公簿など、係として点検、管理を徹底する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>H25度からの新学習指導要領実施に向けて、教務規定の点検・整理、共通理解を図る。</li> <li>公簿の管理に努める。</li> <li>授業時数・日数の確保を計画的にすすめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務規程の点検は随時行っているが、複雑なところもある。</li> <li>出席簿や指導要録の管理徹底に努めた。</li> <li>授業日数から、行事の組み方を工夫した。土曜日授業実施により授業数を確保した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体および科コースの特色に応じた指導を進められるように精査する。</li> <li>35週確保を基本にして、バランス良く行事を実施したい。</li> <li>点検の体制を確保しながら、入試や成績処理のコンピュータ化をさらに進める。</li> </ul>
	(6) 安全・安心な学校生活のための防災意識の啓発			安全に登下校できるように、適宜JRや仙台市交通局と連絡をとる。	悪天候などで遅延が生じたときは、確認のうえ適切な処置をした。	B	学園バス遅れについて要望がきているので、事務と協議をすすめたい。
公営	具体的目標	年度当初			最終評価		

方針	標	項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
	(1) 学びの姿勢の確立及び基礎学力の定着と向上	しっかりとした学習習慣と基礎学力を身につけた生徒の育成	進路決定するまで、または将来就業先や進学先についていくためには、しっかりとした学習習慣と基礎学力を身につけさせなければならない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実力診断・判定テストを4月に全校生対象に実施し、生徒個人で学習計画を立てさせるとともに進路達成に向けた指導に役立てる。</li> <li>・模擬試験を大学・短大志望者全員に受験させ、学力向上を図る。</li> <li>・生徒のニーズに合わせた補習や個別相談・指導に全教員で対応できるようにする。</li> <li>・各種検定試験に積極的に挑戦するよう促し、履歴書・願書記入、自己アピールに役立てる。</li> <li>・進路決定者（特に大学合格者）に対して、基礎学力をつけるために学習させるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果については各クラスで生徒に返すとともに、2ヵ年の分析内容を成績会議の時間をもらって説明することができた。</li> <li>・3年生の受験率はほぼ達成できたが、1,2年生ではまだ未受験の生徒がいる。</li> <li>・個別ではあるが多くの教員が指導に対応した。特に学習合宿においてより効果の高い指導ができた。</li> <li>・進路指導部としては日本語検定、電卓検定等の受検奨励に努めた。また、英語科の協力でGTEC（スコア型英語検定）も導入した。</li> <li>・冬休みに進路決定者全員に学習課題を課した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生対象で実施して2年経過したが、今後は年3回の実施がよいのではないかと考える。</li> <li>・大学入試に対応する学力をつけるためには1,2年生については更に徹底する必要がある。</li> <li>・1,2年生に対しては基礎学力と表現力、3年生に対しては受験準備の指導、補習がもっと必要である。学習合宿を更に拡充して定常補習の流れにもっていききたい。</li> <li>・漢検、英検等の検定を受検することにより大切な学力を直接伸ばすことができる。この点を重視してさらに奨励していきたい。</li> <li>・卒業後、進路先で活躍してもらうためにも、より徹底して実施していきたい。</li> </ul>
進路指導部	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進	進路決定100%達成	昨年度は就職・進学とも数名を除いてほぼ決定している。よりよい進路選択に向けた指導や履歴書・志望理由書・面接・作文・小論文等の受験指導、進路決定後の指導においては、現状に満足せずにさらに徹底して指導していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒および保護者に対して十分な情報提供ができるように、各大学入試説明会や企業訪問の情報を全教員に流し、生徒への指導に役立てたり、親子進路説明会を企画していく。月1回のペースで3年担任との懇談会を実施して進路指導に対する共通理解を図る。</li> <li>・キャリア教育を通じた的確な職業観の育成と正しい進路選択に向けた指導を実践するため、担任や進路指導員によるきめ細やかな面談を早い時期から行う。インターンシップや職場見学を推奨し、指導していく。</li> <li>・進路ガイダンスについては、時期/時機に合わせた内容のものを企画する。</li> <li>・進路ガイドブックを効果的に活用するために、説明会や研修合宿でその活用方法を説明して共通理解を図る。</li> <li>・履歴書・志望理由書・面接・小論文等受験対策として、3年生全員対象に、早期から作文添削指導を継続的に行う。</li> <li>・進路決定者に対して、早期離職や上級学校中退を防止するためにも、モチベーションを維持できるような働きかけをしていく。</li> <li>・卒業生の状況を追跡調査し、生徒への指導に役立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒および保護者に対して、ガイダンスや説明会、進路だより等を活用して必要な情報を流した。しかし、3年担任との懇談会は設定日時が悪く、十分に実施できなかった。</li> <li>・進路相談や面接練習等の指導については、進路指導員や各科コースの先生方の尽力により今までにないくらいきめ細かく実施できた。</li> <li>・進路ガイダンスは校内で1年生2回、2,3年生1回ずつ実施し、その他に校外進路説明会や就職面接会に多数参加させた。</li> <li>・全学年（特に1年生は新入生合宿にて）に対してガイダンスを開いて進路ガイドブックの活用法を周知させた。</li> <li>・作文添削指導および履歴書・志望理由書・面接・小論文指導については、今までにないくらいきめ細かく実施できた。</li> <li>・2/8に宮城県高校教育課担当者を招いて入社準備セミナーを実施し、ビジネスマナーや社会保険、労働法の基礎について周知させた。</li> <li>・2～3月までに調査する予定である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年担任との懇談会は、進路情報交換のためにも必要である。予め行事予定表に入れてしっかりと実施したい。</li> <li>・更に全教員および進路指導員による指導をきめ細かく行い、生徒全員が希望進路を達成できるよう実施していきたい。</li> <li>・校外での各種説明会・面接会への参加状況は、クラスによる温度差が大きいように感じる。各クラスでより積極的な声かけをお願いしたい。</li> <li>・更に使いやすい進路ガイドブック編集を心がけるとともに、もっと多く活用できるよう働きかけていきたい。</li> <li>・今年度の進路実績は、これらきめ細かい面接・小論文・作文・志望理由履歴書等の指導によるところが大きい。更に強力な体制づくりを目指していきたい。</li> <li>・入社準備セミナーについてはとてもよい内容であったので、今後も継続して実施していきたい。ただ、全体的な働きかけそのものは、まだ物足りなさを感じるの、是非全体で取り組んでもらいたい。</li> <li>・これまでのところまとめることができていないので、まずは年度中に一覧にして、次年度に引き継ぎたい。</li> </ul>

分掌	具体的目標	年 度 当 初			最 終 評 価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
生徒指導部	(1) 学びの姿勢の確立及び基礎学力の定着と向上	日々の生活や行事に対して積極的に取り組む姿勢の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心豊かで優しい生徒が多く、挨拶も盛んに交わされるようになった。</li> <li>・クラスの係や委員会活動に対する意欲がやや薄いと思われる。</li> <li>・部活動加入率の上昇と、活動内容や実績のレベルアップがみられる。</li> <li>・朝の挨拶運動やマナーアップ運動が行われ、自主自律の精神が育成されてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の挨拶運動を継続、風紀委員会とともにマナーアップ運動を推進していく。</li> </ul>	<p>推進指定校として、研修会に参加したり、街頭での呼びかけ運動なども行った。オリジナルキャラクターをポスター等で使用し、全校生徒の目に触れるように掲示したほか、毎週火曜日に朝の挨拶運動を継続中である。</p>	B	<p>継続していきたい。話し合い活動を行うことで意識を高めさせ、より多くの生徒から自主的な声が出るとしたい。</p>
	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取り組み			<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR活動の充実・・・「ハイスクール2012」等の活用。クラス役員「一人一役」・コースの特性を活かした行事設定。</li> <li>・委員会活動の活発化・・・定期的な委員会開催とリーダー育成。行事における早めの確認準備徹底。</li> <li>・広報活動の推進・・・生徒会掲示板などを活用した「見える」生徒会活動。</li> <li>・部活動のさらなる活発化を目指し、下校時の「部活動バス」の運行を検討する。また、文化部の研修の機会を設ける。</li> <li>・学園祭や体育祭は、計画立案の段階で十分な討議を生徒会本部・実行委員会で行うようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスで「一人一役」を任せられるように、独自の係を設定するクラスもあった。遠足や修学旅行、体育祭のほか、コース行事を通じてクラスの仲間と思い出を作れたようだ。</li> <li>・各種委員会は、早めの開催を心がけた。生徒のアイデアを活かした取り組みもみられた。</li> <li>・昇降口掲示板を利用し、行事関係の連絡を行い、意識付けを図った。</li> <li>・加入率は前期89%（昨年83%）と向上した。部活動バス運行について全校生徒アンケートを実施したが、運行するまでには至らなかった。部活動講演会が行われ、意義ある研修となった。</li> <li>・体育祭は震災前と同じくグランディで開催できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間内で、計画的に実施しなければならない。</li> <li>・いつも時間に追われて作業をこなすことが多いが、より積極的に関わられるような環境を作りたい。</li> <li>・生徒のアイデアを活かし、タイムリーに掲示物を作成して、掲示することが求められる。</li> <li>・毎週木曜「部活動の日」を再度実施してはどうかと考える。</li> <li>・25年度の体育祭は、新設される学校グラウンドやバスケラボを使用して実施予定。計画段階からしっかり準備する必要がある。</li> </ul>	
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動			<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部との連携・・・各種検査/個人面談の実施。LHRを活用した進路ガイダンス。</li> <li>・全校集会「生徒代表の話」での目標設定や実践報告。科コースの取り組みの紹介。</li> </ul>	<p>HRの数が限られる中であつたが、各種検査を実施。集会での「生徒代表の話」は、各科コースの活動を理解する一助となっている。（時間短縮のため、3名→2名に減らした）</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会での賞状伝達の時間が長くなっている。今後も伝達方法の工夫を行いたい。また、「生徒代表の話」は、各科コースの活動理解とともに、進路意識の向上にも効果があるので、継続したい。</li> <li>・集会での校歌指導も継続したい。</li> </ul>
	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進			<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や各種行事での生徒の活躍を幅広くPRする。具体的には学校HPへの掲載依頼や垂れ幕設置などをタイムリーに行う。</li> </ul>	<p>今年も垂れ幕設置を行った。学園祭では、生徒会企画も取り入れ、大変充実したものとなった。昼の放送でも、生徒の活躍をPRした番組を放送した。</p>	B	<p>今後も継続したい。</p>
	(5) 募集定員充足のための学科・コースの工夫改善			<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災ボランティア活動・・・東日本大震災の復興ボランティア活動のあり方を検討し、継続して実施する。</li> </ul>	<p>12月に調理科生徒、吹奏楽部、有志参加生徒で石巻市立北上中学校にて実施。現地の皆様から感謝されたほか、生徒にとっても貴重な体験となったと思われる。</p>	A	<p>今後も継続したい。</p>
	(6) 安全・安心な学校生活のための防災意識の啓発						

分掌	具体的目標	年度当初			最終評価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
生活指導部	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取り組み	規範意識を高める規律指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公私や場に応じた態度・行動の使い分けが不十分である。</li> <li>・感情や周りに流され、軽率な行動を取るものが少なくない。</li> <li>・規範を尊重する態度と自尊感情は表裏である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ、言葉遣い、あいさつなどの指導を通して、公の場面にふさわしい態度や行動を身に付けさせる。</li> <li>・「生活指導だより」や講話を通じて、規範意識の醸成、問題行動予防、風紀の向上について継続的に働きかける。</li> <li>・問題行動や生活面での乱れに対して、全教員で毅然と対応する。</li> <li>・生徒一人ひとり特性や状況に応じて、改善への意欲を持たせるよう指導する。</li> <li>・小さな進歩を認め、より良い自己を実現しようとする心を引き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校門、職員室入室時、集会時、すれ違い時等の諸場面で声掛けを行い、乱れを正すようにしてきた。きちんとしなければならぬという意識は広がりつつあるが、不徹底な部分も見られる。</li> <li>・「生活指導だより」の発行が不十分であった。講話については、集会時の他、朝のLHRの時間などにクラスに赴いておこなった。</li> <li>・朝の職員打合せや生活指導部打合せで問題や乱れを報告し、指導を呼びかけた。</li> <li>・問題行動についての会議では、生徒の特性や状況の把握と今後の課題について様々な視点から話し合った。12月の生活指導研修会では事例報告を行い、生徒の特性の把握や指導のあり方について研修した。</li> <li>・生徒と関わりを持つように努め、本人の改善の意志を励まし、行動の改善を認めるよう心掛けて指導に当たった。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徹底のためには、「目指す生徒像」と現状の間に存する課題について共通の認識を持ち、何をすべきかについて共通理解する必要がある。生活指導においては導入期が重要な意味を持つ。次年度導入期の指導に当たるまでに共通認識、共通理解を図ることが必要である。</li> <li>・「生活指導だより」の定期刊行化を徹底したい。</li> <li>・個別の生徒に関する情報交換をより密にし、反省を深め、向上に対する意欲を高める指導のあり方を追求し、成功事例からその手立てを共有化する場を多く設けていくようにしたい。</li> </ul>
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	・思いやり、他に学ぶ姿勢の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の気持ちを考えないことが、マナー違反や人間関係上のトラブルに繋がっている側面がある。</li> <li>・自分の価値観や世界観の偏狭さに気づいていない向きがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他への思いやりを育成する様々な試みを継続的に行う。</li> <li>・様々な生き方を紹介し、自分の生き方を振り返らせるとともに、より良く生きようとする気持ちを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導だよりで他を思いやる心について触れたが、散発の感がある。</li> <li>・他の生き方に触れさせる活動が十分でなかった。</li> </ul>	D	生活の個別化が進み、人間関係が希薄になりつつある。人間教育という観点から、他人を思いやったり、他人の生き方に学んだりする機会を与え、自己中心的な考えから脱却させていくことは不可避の課題と言える。まとまった資料を用意し、適切な時期に指導する準備を進めることが必要である。
募集業務部	(5) 募集定員充足のための学科・コースの工夫改善	生徒募集	少子化にともない志願者数・入学者数が減少してきている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試結果の分析を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度入試に関しては募集業務部として調査分析を行い、生徒募集委員会でも協議し、6月の職員会議で報告を行った。</li> <li>・25年度入試は、入試制度に変更はあったものの、志願者数は24年度をさらに上回る数となった。その原因については今後分析していく。</li> </ul>	A	26年度入試は、25年度入試の分析をもとに、さらに志願者数を増やすためには何が必要か、組織的な機能を高め、きめ細かな戦略を立てていく。
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒募集に関わる広報活動全般を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR活動ではポスター・学校案内パンフレット・オープンスクールリーフレットの内容の充実を図り、広報誌「明成だより」のリニューアル版を継続発行した。またホームページや新聞・受験雑誌等にも各種情報を掲載し、学校紹介DVDも完成した。</li> <li>・外部主催の高校説明会、進学相談会、教育懇談会等への参加をはじめ、今年度からは本校主催の入試相談会・学校見学会も実施した。</li> <li>・一般入試はA・B日程の2回実施し、震災の影響を考慮した外部入試、県南地区は仙台大学、石巻登米地区は矢本第二中学校で実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、中学生・保護者・一般市民の皆さんの関心を引き、見てもらえる読んでもらえるように内容を充実していく。</li> <li>・本校主催の入試相談会・学校見学会は今後も継続していく。</li> </ul>

分掌	具体的目標	年度当初			最終評価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
他校種地域担当部	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	小学校・中学校との連携	近隣の小学校・中学校の要望に応じて各体験教室等の連携を実施している。	本校生が小学生・中学生を相手に授業を行い、自分で考える学習体験をする。(料理教室・パソコン教室・介護福祉体験・陶芸教室等)	川平小, 中山小, 八幡小, 南光台小, 旭ヶ丘小, 八本松小, 南材木町小, 田子中などと一緒に, 科・コースの協力のもとに食育教室, 介護福祉体験教室, 陸上教室, 介護の出前授業等を開催することができ, いずれも好評だった。	A	小・中学校と調整しながら今後も継続していく。
		地域との連携	桜ヶ丘・川平・中山・長命ヶ丘・加茂地区などと連携して, 各教室を実施している。	本校生が地域の方々と一緒に取り組める教室等を考え実施する。また, 本校だけでなく, 仙台大学を利用した内容の取り組みも考え実施する。(仙台大学の施設見学及び軽運動教室など)	桜ヶ丘, 川平, 中山, 西多賀, 松陵, 福室, 将監, 青葉区中央, 連坊, 貝ヶ森地区の皆さんと一緒に連携して, 料理教室, パソコン教室等で交流を行った。	A	各種団体と調整しながら今後も継続していく。
		仙台大学との連携	仙台大学の施設を使用した授業や仙台大学の先生による講義などを行っている。	各科・コースと調整をしながら仙台大学を利用した取り組みを考え実施する。(施設見学など)	今年度は実施できなかった。	C	大学と調整しながら可能な限り実施していく。
		*他校種地域連携事業についてのPRについて	近隣の小学校・中学校へ事業内容の説明を行っている。	各科・コースの特色をまとめた資料を準備して, 近隣の小中学校及び地域の団体等を訪問する。	今年度は訪問することができなかったが, 一緒に取り組んだ団体の皆さんへはPRすることができた。	B	今後も継続し, 新しい団体へのPRに力を入れていく。
防災担当部	(6) 安全・安心な学校生活のための防災意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災環境の整備</li> <li>防災教育の確立</li> <li>地域防災との連携協力</li> </ul>	今年度から, 新たに配置された校務分掌である。校舎などの施設が老朽している。震災の補修工事が完了しているが今後の備えが必要と思われる。	研修会や会議に出席し, 必要事柄の把握, 環境の整備, 防災教育, 地域連携などの防災マニュアルを作成し, 順次実施する。	宮城県教育委員会主催の研修会(全3回)にすべて出席した。研修会の内容を基に現在「防災マニュアル」を作成している。本年度実施された各学校行事では「地震発生時の対応マニュアル」を作成し備えた。	C	現在作成している「防災マニュアル」を基に実施すべき点について順次実施し確認と改善を行う。
保健厚生	(1) 学びの姿勢の確立及び基礎学力の定着と向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力定着の為の学習支援の協同開発を行う。</li> <li>学習環境の整備: 落ち着いた学習ができるよう, 清潔で明るい学習環境を自ら整えられる生徒を育成する。</li> <li>学習意欲はあるが教室に入れない生徒について, 学級復帰を目指して支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災の影響での不安定な心身の状況も徐々に落ち着きを取り戻してきている。</li> <li>保健室利用者も始業のベル着を実行できている。</li> <li>要支援生徒(LD, ADHD, PDD)が増加傾向である。</li> <li>特別教室付近の清掃が不徹底である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援体制の具体化(指導計画作成など)を行う。</li> <li>学習環境の整備として教室等の清潔な環境づくりを行う。日常の清掃指導と点検活動の定着を図る。</li> <li>更衣室利用の啓蒙を図る。</li> <li>登校できない生徒への支援や適切な対応に向けて, 課題学習の充実を図り, フレンドリータイムも適宜実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健室利用について今年度前期, 1年女子の利用が目立って多く, 対応に時間が必要だった。</li> <li>保健厚生係会での生徒支援の情報交換検討を行った。その都度関係教員での単発の検討会が多く行われ支援方針の検討を行った。</li> <li>クラスの健康観察については定着してきた。感染症予防・不登校気味生徒の把握に役立った。</li> <li>朝の校内放送での保健指導を行うことができた。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察の活用として, リスクマネージメントとしての考え方で定着させて行く。</li> <li>基礎疾患の共通理解も継続し, 進路選択の際も考慮するように情報提供する。</li> </ul>

分掌	具体的目標	年度当初			最終評価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
保健 厚生	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的に健康を管理する能力を身につけ、将来に向けて自信を持つことのできる生徒の育成</li> <li>・学校生活において協力する楽しさ、困難を乗り越えられる力を身につけられるように手助けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒は規律ある生活ができています。</li> <li>・精神的な健康問題を有して規律ある生活が難しい生徒もいる。</li> <li>・震災の影響からか定期健診後の治療率が伸び悩みである。</li> <li>・教室以外の場に身を置く中で、生活規律の面で注意すべき生徒が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の突発的な行動への予防的な対応として健康問題を有する生徒への支援を行う。(ケース会議・指導計画作成など)</li> <li>・日常の健康観察を定着させ、問題の早期発見に繋げる。</li> <li>・教職員間の情報交換・連携と研修を図る。</li> <li>・視聴覚係との連携で保健指導を図る。</li> <li>・明成高校生としての自覚を促し、マナーアップを図る。</li> <li>・生徒の基礎疾患の共通理解を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断事後措置について、5.6.11.12月に治療勧告書の配布を行った。しかし、目標数値までの治療率には達していない。</li> <li>・貧血・虫歯について個別保健指導の実施を行った。</li> <li>・震災後の心のケアについて12月の大きな余震での体調不良者がいた。</li> <li>・健康相談についてはCRやSCLとの連携ができ、ケースにより有効に活用された。</li> <li>・性の授業は、1年生の保健の時間を活用して実施した。日常の細かい指導も必要である。保護者への啓蒙も必要である。</li> <li>・生徒保健委員会の活動では、掲示板を固定化できて啓蒙活動がより定着できた。</li> <li>・CRと情報コースの話し合いを持ち生徒指導上、効果が上がった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診結果の通知と保護者の理解・協力を得て早期受診できるような工夫と担任の協力が必要である。</li> <li>・性の教育について日常的な指導も工夫が必要である。</li> <li>・震災後の心のケアはより注意深く観察が必要で、新入生の震災時の状況について共通理解も必要となる時期である。</li> <li>・生徒保健委員会は幹部の体制づくりから、クラスの保健委員の仕事の確認と活動への協力的体制づくりへ発展させたい。</li> <li>・CRとコースの打ち合わせ会を情報コースや他のコースとも持ちたい。</li> </ul>
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の生命を大切にし、心身共に健全で学習活動ができる生徒の育成</li> <li>・生徒保健委員会の指導をさらに活発に行なえるよう指導する。</li> <li>・教育相談室の機能及び相談活動の充実を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健厚生係会での情報交換から各コースとCRの連携でクラス復帰ができた生徒も多くみられ早期対応での支援ができています。</li> <li>・教育相談を必要とする生徒の状況は、さまざまである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期健診の結果報告と速やかな事後措置の推進を図る。</li> <li>・健康診断の事後指導で要医療の生徒は、個別の指導を行う。</li> <li>・治療率、特に歯科の向上を図る。</li> <li>・震災後の心のケアの継続を行う。</li> <li>・教職員のカウンセリングマインド育成、多様な生徒への共通理解を図り、支援態勢を確立する。</li> <li>・健康相談活動の充実を図る。</li> <li>・CRと連携して早期に心の問題に対応する。</li> <li>・性の自己管理能力の育成を図る。</li> <li>・清掃ボランティアの継続的な取り組みを呼びかける。</li> <li>・生徒保健委員会「ヘルス インフォメーション」・ポスター掲示などの啓蒙活動をさらに活発化させる。</li> </ul>	授業の中でのスキルアップの時間の確保が難しい。2学期は、SCLの相談時間に余裕があり、今後さらに連携を図りたい。	B	さらに各科コースの生徒指導に生かされるよう連携したい。
	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進	コミュニケーションスキルの向上を図り進路に向けて自信を持つことのできる生徒の育成	保健室利用生徒は、進路達成への目標が不安定傾向である。	保健厚生係会の定期的な開催でニーズを把握し、専門スタッフとの連携を図る。	気持ちを安定させて進路を考えられるように、担任や就職支援教員及びカウンセラーなど、様々な場面で支援できた。	B	中学時の不登校生徒の入学が減少していないことや、面倒見がよく生徒支援をしてくれる学校との評価があり、一層校内の支援体制を構築することが必要である。
	(6) 安全・安心な学校生活のための防災意識の啓発	心の健康の保持増進と安全な暮らしができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理システムの機能が十分ではない点が見られる。</li> <li>・安全点検項目の確認が不確実である</li> <li>・健康問題を有する生徒の緊急時の対応について具体的な対策を必要としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の対応シートを作成する。</li> <li>・心の緊急支援体制づくりを行う。</li> <li>・カウンセラーほか専門医療機関などとの連携を図る。</li> <li>・怪我の予防・事故防止など指導を他の分掌と連携して行う。</li> <li>・安全点検を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「緊急時の対応シート」及び「心の緊急支援体制づくり」を行い資料を職員に提示できた。</li> <li>・怪我による保健室利用数が増加した。・外科利用数：907件（H24年4～12月まで）昨年695件（H23年5～24年2月まで）</li> <li>・安全点検は日程設定できず。その都度修理の依頼を行っていた。</li> </ul>	B	緊急時マニュアルをガイドブックなどに入れて、職員の共通理解を得るようにする。

分掌	具体的目標	年度当初			最終評価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
P T A	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取り組み	学校と家庭の連携	生徒を向上させるためには、学校・保護者が生徒指導（学習面・生活面）の両輪である意識を高める必要がある。	・生徒を向上させるためには、学校・保護者の緊密な連携が必要であることを、保護者が参加する場面でその都度説いて行く。	・各行事案内をその都度適時行い保護者へ参加・協力をお願いしてきた。 ・本校PTA活動の特徴でもある支部活動において支部役員が決定せず、支部活動が滞った支部が出てしまった。	D	支部の役員選出については本校PTA活動の根幹にも関わることに認識し、次年度はしっかり役員選出を実施し、支部長さんを中心に支部活動はもとより、本部主催の行事にも積極的に参加するよう協力を求めていく。
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	PTA活動の活発化	各支部・各学級とも役員の人選、引き受けてに苦慮しているのが現状である。	・定例総会、支部総会、研修会等に「参加して良かった。」というお徳感が得られるような内容の行事にするよう検討を行う。 ・事務局として、懸案事項の改善を進める。（支部の統合、総会委任状の取り扱い、表彰規定の検討など）	・各行事に参加していただいた保護者からは全員が全員、「参加して良かった」「楽しかった」「大いに参考になった」旨の感想を寄せていただいている。 ・懸案事項の一部については、他校の協力を得てようやく資料を準備することが出来た。	C	・左記のとおり、要はいかに都合を付けて「参加する」意識を持ってもらうかということなので、役員さんを中心に、参加を促す働きかけを繰り返し行っていく。 ・現行になったいきさつを精査し、他校からの資料を活用し、次年度いっぱいかけて検討し、改善案をまとめる。
	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進	早期に進路希望達成に関心を持ってもらうための他分掌や学年会と連携を図る。	進路希望達成に父母教師会として関わる場面が少ない。	・保護者が参加する会議・研修会への積極的参加を促すための連携方策を、具体的に考える。 ・仙台大学施設見学会への参加者増加を目指す。	設定時期、期日が平日であったり、他行事の狭間に入ったりして、参加者が少なかった。	D	行事が実施曜日により参加者数が左右されるが、同様の行事を実施している他分掌（進路指導部等）と連絡調整を図り改善したい。
同窓会	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	同窓生と在校生の交流の場を広げ、人づくりの明成力を伝える組織活動を築き上げる。	・同窓会の各行事（総会・研修会）への参加者が少ない。 ・同窓会行事に対する在校生の興味・関心が薄い。 ・同窓会の存在意義についての理解が十分でない。	・会誌「明成だより」を交流の広場にすよう、さらに充実を図る。 ・行事等を会誌・ホームページを活用しPRをはかる。 ・各HRで同窓会係を選出する。 ・同窓会役員と学級選出の同窓会係の交流と協働活動を模索する。 ・支部活動や卒業年次別活動の活発化を支援する。	・同窓生の活動の把握が難しい。記事の依頼にも限界がある。 ・本部主催の行事等は、事前に把握でき、掲載できた。 ・同窓会係の選出はなされた。 ・役員と在校生との交流は活動時間の相違で実現しなかった。しかし、総会の会場設営は同窓会係が行った。 ・東京支部が支部会を開催、本部役員5名、法人・学校より3名出席する。	B	・大学等での活躍は記事にできた。同級会的な交流の場の記事を掲載する。 ・会誌は年3回なので、HPでの広報を密にする必要がある。 ・同窓会係を組織化し、活動をする。 ・今年は総会会場の設営のみであったが、総会への参加等も計画する。 ・卒業幹事等との連絡を図り、卒業年度別の活動を支援する。